

沖縄県健康産業協議会 会報

沖縄県健康産業協議会 新役員

1	会長	大道 敦	代表取締役社長	株式会社ポイントビュール
2	副会長	宮城 幹夫	代表取締役社長	金秀バイオ株式会社
3	副会長	長濱 徳勝	代表取締役社長	沖縄八ム総合食品株式会社
4	副会長	宮城 尚志	代表取締役専務	株式会社沖縄県物産公社
5	副会長	阿部 正夫	代表取締役	株式会社アクアメディカル研究所
6	理事	下地 清吉	代表取締役	有限会社沖縄長生薬草本社
7	理事	渡久地 政行	代表取締役	有限会社水耕八重岳
8	理事	新垣 昌光	副社長	オリオンビール株式会社
9	理事	仲松 政治	代表取締役社長	株式会社石川酒造場
10	理事	平良 範子	代表取締役	株式会社健食沖縄
11	理事	小林 ゆり江	専務取締役	株式会社みやび
12	理事	饒平名 光三	理事長	沖縄県保健食品開発協同組合
13	監事	比嘉 忠志	代表取締役	株式会社比嘉製茶
14	監事	中本 泰一郎	代表取締役社長	南西食品株式会社

任期：平成28年5月23日から平成30年度定期総会の日まで

五月二十三日(金)、沖縄産業支援センターに於いて、平成二十八年度沖縄県健康産業協議会定期総会が開催された。

本総会では、第一号議案「平成二十七年事業報告及び収支決算について」、第二号議案「平成二十八年度事業計画及び収支予算について」、第三号議案「役員選任について」の三案が承認された。総会終了後に、理事会が行われ、会長は化粧品製造販売を手掛ける株式会社ポイントビュール代表取締役社長の大道敦氏が選任(二期連続)され、副会長四名、監事二名が決定した。(新役員体制、任期については同左参照)



また、特別講演会では、昨年度実施の沖縄県産食品推進モデル事業で調査した沖縄県産の機能性エビデンスの蓄積状況やプロモーションの実施状況・成果及び今後の課題などが報告され多くの参加者が熱心に聞き入った。

平成二十八年度 沖縄県健康産業協議会 定期総会・特別講演会

研究紹介

沖縄県工業技術センターでは、平成二十六年から二十八年度の三年間、「沖縄の機能性を有する地域資源活用型ネットワーク構築事業」というテーマで研究を行っています。本テーマは、ネットワーク構築を目的とする八機関の共同研究で、当センターではエンサイと春ウコンについて、基礎研究成果に基づ

いた応用研究を行った。これまでエンサイには、α-グルコシダーゼ阻害活性を有するイソクロロゲン酸が含まれていること、また培養細胞インスリン分泌促進活性も有することを報告してきました。本研究では、エンサイ中のインスリン分泌促進物質の一つがケルセチン配糖体であること、

エンサイには、インスリン分泌を促進する腸管ホルモンを分解する酵素(DPP-IV)の阻害活性や、糖尿病の合併症に関与するタンパク質糖化反応抑制活性も有すること等が分かりました。現在は、各種活性成分との比較を行っています。

一方、県内企業で要望の高い春ウコンについては、特徴成分が精製された後は、構築したネットワークを活用して県内企業と製品化を目指します。

健康食品ブランド化推進基盤構築事業(報告)

専門コーディネーター 村木 実由紀

今年度から実施の「健康食品ブランド化推進基盤構築事業」を(公財)沖縄県産業振興社(株)沖縄TEL.098-261-1111(社)トロピカルテクノフラス、沖縄県健康産業協議会の四機関(JV)にて受託。業務仕様書に基づき協議会担当の実施状況を報告します。

七名の方々に委員を依頼し、星先生を委員長として、平成二十八年度八月十七日第一回、十二月二十日第二回、検討委員会を開催。健康食品市場における沖縄ブランド確立に向け、沖縄独自のブランド認定制度のあり方等についてご意見を頂戴いたしました。

者向けの講演会等の開催。第一回は、平成二十八年十月五日、江戸川大学特任教授 濱田逸郎氏を講師にお招きし、「沖縄県内企業に即役立つ効果的プロモーション」と題して、消費者に届くメディア活用方法とブランドデザインについてご講演頂戴いたしました。

健康食品ブランド化推進基盤構築事業の中で立ち上げた、「事業者参加型ブランド化推進チームメンバー」がプロデュース。十月二十一日から三日間、那覇市奥武山公園アリーナ棟に出席。三拍子戦略「機能的価値」「情緒的価値」「安全安心」を軸に、分かりやすいプロモーションを展開。県民や業界関係者に広く適正な認知を広め、「全国又チグス」化計画の理解者、協力者になってもらい、広く情報発信してもらい、ことを目的として実施。

「実施内容」
 ①健康寿命を伸ばそう！「沖縄発」ローカルブランドを担う健康素材の素晴らしを紹介
 ②県産素材・県産健康食品のサポートを実施、サポーター認定証(カード)を交付。三〇一回答有。商品チラシを付けて丁寧な説明も交え県産健康食品等のプレゼンを実施(協力十四社約二〇〇〇個)今後SNS・口コミ等でのPRを依頼
 ③全国へ発信する「県民の声募集」来場者インタ

会社名/職名	名前(敬称略)	ジャンル
国立大学法人琉球大学 副学長(産学官連携担当)	星 宏典	食品機能性研究、産学官連携
日経BPヒット総合研究所 主席研究員	西沢 邦浩	情報発信、メディア戦略
グラム株式会社 代表取締役社長	山田 敦郎	ブランディング
金秀バイオ株式会社 代表取締役社長	宮城 幹夫	業界(県内)
株式会社グローバルニュートリショングループ 代表取締役	武田 猛	健康食品分野市場動向、法規制
独立行政法人中小企業基盤整備機構 沖縄事務所 地域活性化支援チーフアドバイザー	並木 万希	マーケティング、商品開発支援
沖縄県商工労働部ものづくり振興課 課長	山城 貴子	沖縄県

①検討委員会の設置・運営を実施
 ②事業者参加型ブランド化推進チーム
 平成二十八年度八月十九日立ち上げ、今年度は五回チーム会議を実施。沖縄の産業まつりでは県民をサポーターに取り込み、ターゲット市場に訴求するプロモーションを実施。ブランド認定制度についての勉強会や業界意見の取りまとめを行った。平成二十九年一月現在メンバーは十四名。
 ③ブランド力強化プラットフォームの運用による事業者支援体制の構築
 各企業製品の沖縄ブランド化を促進するため、業界と支援機関が一体となったプロジェクト支援機能を持ったプラットフォームを構築。平成二十八年度九月一日に県内健康食品事業者向け相談窓口を協議会内に設置しプレスリリース済。

◆沖縄の健康産業の発展には、業界一丸となった沖縄ブランドの定着・強化を進める持続的な取組が不可欠です。各企業企業様におかれましては引き続き本事業にご協力下さいますようお願い致します。



ビュー&撮影八十七人の声を収集しYouTubeにアップ
 ④会員企業等の商品展示十九社一〇九品目出展
 ⑤機能性表示食品制度パネル展示
 ⑥健康食品ブランド化推進基盤構築事業紹介チラシ配布(兼・来場者数カウント)二二〇〇名
 Webカクタログの紹介(バイヤー向け)チラシ配布一〇〇〇枚
 ⑦県内健康食品事業者向け相談窓口の出張受付実施十四件受理
 ほか、商談取次、琉球もろみ酢などの試飲、アロエベラ(刺身)などの試食、沖縄県健康産業協議会会員企業募集などを実施した。

・「和(なご)」シークワーサー実費隊「名護市のメカ」4社が連携し、名護産シークワーサーを使った商品を販路拡大中！(有限会社沖縄アロエ)

・ブランドリニューアルし、沖縄の美しい海やサンゴを連想させるエンブレムとパッケージデザインに全ラインナップを一新！(株式会社ちゅうら)

・新商品「シマカラ」2種シークワーサーの酸味と苦味が唐辛子の辛味を引き立てる、辛い物好きにオススメの調味料です。(沖縄特産販売株式会社)

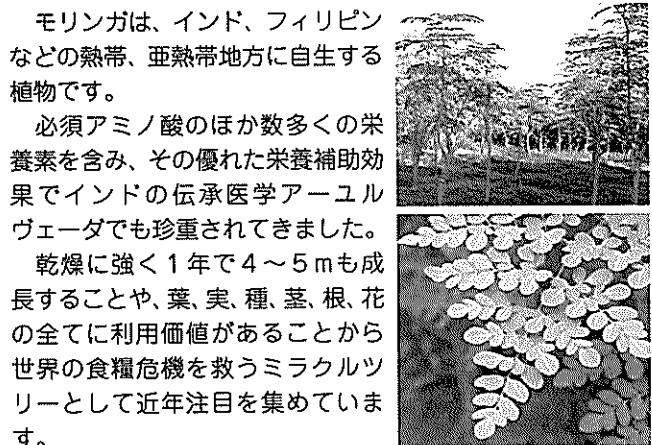
・名護市の勝山地区では、毎年3月の第2土・日曜日に「勝山シークワーサー花祭り」が開催されます。ぜひ遊びに来てください！(有限会社勝山シークワーサー)

・日本健康・栄養食品協会より、昨年12月に「原材料GMP」適合認定！与那国町の原材料GMP工場として認定されました。(コーラルインターナショナル株式会社)

・大学と連携し、海洋由来乳酸菌で発酵させた長命草の発酵液で、美白効果の研究成果発表！化粧品原料のIN-CIに、米国で登録。(株式会社ポイントビュール)

沖縄の素材紹介 モリンガ

和名：ワサビノキ 学名：Moringa oleifera Lam



モリンガは、インド、フィリピンなどの熱帯、亜熱帯地方に自生する植物です。必須アミノ酸のほか数多くの栄養素を含み、その優れた栄養補助効果でインドの伝承医学アーユルヴェーダでも珍重されてきました。乾燥に強く1年で4~5mも成長することや、葉、実、種、茎、根、花の全てに利用価値があることから世界の食糧危機を救うミラクルリーとして近年注目を集めています。

日本では、沖縄が栽培環境として最も適していると言われており、十数年前からモリンガの栽培が始まりました。現在では、スーパーフードとしても注目を集め「沖縄県産モリンガ」の需要が高まり生産者も増えてきています。沖縄県産のモリンガは、健康食品原料・化粧品等、様々な場面で活用されています。